

新定  
中等習字帖

下

K220,72  
49  
3

K220.72

49

3

橋本文書編

玉木愛石書

定新山寺習字帖

下

大東  
陵京

開文館發行

緒言

一本書ハ中學校及ベコルト同程度ノ諸學校教科用書ニ充ツル目的ヲ以テ編纂セシモノナリ

一本書ノ材料ハ現今中學校ニ行ハル、國語讀本及ベ漢文讀本ト連絡ヲ保チ、普通ノ文字ニ習熟セシメ、且ツ雅言・格言・詩歌等ヲ採輯シ、練習ノ傍、諷誦シテ興味ヲ感セシメ、學生ヲシテ倦怠ノ念ナカラシメンコトヲ勉メタリ

一本書ハ中學校教授要目ニ従ヒ、上卷ハ楷書・行書トシ、中・下二卷ハ行書

ヲ主トシテ楷書・草書ヲ交ヘ、上・中二卷ニハ大字・細字及ベ假名ヲ納メ、下卷ニハ細字及ベ假名ヲ納メタリ

一本書ハ毎回課スルニ左右二頁ヲ以テシ、隔週毎ニ淨書セシムルモノトス

編者識

大禹聖人乃惜寸陰至  
於衆人當惜分陰豈可

下  
一

佚遊荒廢生無益於時  
死無聞於後是自棄也。

戊辰三月官軍先鋒至品川十五日  
を期して侵撃の令あると同日十四

日書成先鋒參謀に送り一見成  
希ふ余高輪薩摩の邸に到る。

おなじ自然のおん母の御手に育ちし姉と妹  
みそらの花を星やつみわが世の星を花とつふ  
かれとまことたつたねどにほひはおみじ星と花

ふみや光をよひくにかほすもやさし花と星  
まもらばあけぼの雲白く御空の花のしほむ時  
見よ白露のひとしづくわが世の星に涙あり。

朝辭白帝彩雲間  
千里江陵一日還

下  
四

兩岸猿聲啼不住  
輕舟已過萬重山。

みづかぎばよもきをゆでとらん  
人のあはれをかくぞ阿ふま。

下  
五

とりのまはるるこがしひ花のりそ  
あはれよのまはるるぞおの婦。



半夏生。女竹。大榎。泰山木。  
白木蓮。山百合。嫁菜。撫子。

萬年草。百日草。千鳥草。桔  
梗。金蓮花。亞米利加白薊。

薛文清先生曰讀史最有益古人  
多有明見於事幾之先者如事之

成敗人之賢否皆預言於前而  
具應於後此等殊聞人是識。

今日ナシ得ベキ事ヲ明日マデ延スコトナカレ。  
汝自ラ爲シ得ベキ事ヲ人ニ爲サシムル事勿レ。

怒リタル時ニハ言語ヲ發スル前二十ノ數ヲ數  
ヘヨモシ甚シク怒リタル時八百ノ數ヲ數ヘヨ。

夫達人は大觀す板山蓋世の勇あるも榮枯は  
夢か幻か大陽山の狩くらに真如の月の影清く  
一念多想を觀ずらん何を怒るかいかり猪の

俄に激する數千騎勇みにいそむほやりをの  
騎虎の勢一徹に止り難きを是非もなき唯  
身ひとつをお捨て若殿ぼらに報いたん。

そとひあまし潤やなちやぐ山川のあましは清よ  
こそあたは波も多し。まつひよ海やさるるべし

山川の静し木の葉も下ぐるなり。雨も霞もや  
みどるもさへたれはくたつまはなをじ谷川に水。

少子の先字難成一寸先臨水の種  
未足池塘喜の字後時格葉の秋香。

体は他つ多苦辛同袍有友自お親  
紫鹿曉仕おお女言君汲川流我捨新。

先便セイロンよりの拙書に於て海峽の事と  
存じ候る末船是處よりアデンを過ぎスエズを  
過ぎて昨夜ポートサイドにお着りたし候へば

海峽の事と埃及の東山嶺にある一山市にて  
地中海の入口に於ては今更そに歐羅巴亞細亞  
亞非利加三洲の境界の上た立てるに候。

遠上寒山石徑斜  
白雲生處有人家

下士

停車坐愛楓林晚  
霜葉紅於二月花。



紫雲英。蒲公英。土筆。柳。櫻。  
燕子花。花菖蒲。溪蓀。朝顏。

梧桐。楓。芭蕉。秋海棠。白菊。  
樅。杉。松。柏。檜。南天燭。臘梅。

忠臣は國あることを知りて家あることを知らず。孝子は親あることを知りて己あることを知らず。樵夫は山にとり、漁夫は海に浮ぶ。

人各その業をたのしむべし。他山の石は玉を磨くべし。憂患の事は心を磨くべし。水を飲んで楽しむものあり。錦を衣て憂ふるものあり。

相の葉をけけ影見はて秋とはほのろく夕を  
くら待ち居待ちあちとりて幾秋の月を眺めけん。

木の葉のゆりしく山の端の時をよみたりきぬふゆを  
雪たてりおほふ月のげななほかたかこしと田舎にた。

統海颶風連天黑蔽海而未者何賊蒙古未  
自北東西次第期吞食嚇得趙家老寡婦持此  
未擬男兒國相摸太郎膽如甕防海將士人名

力蒙古未吾不怖吾怖關東令女山直前所  
賊不許顧倒吾檣登虜艦擒虜將吾軍喊  
可恨東風一驅附大濤不使羶血盡膏日本刀。

南米の約束に本意は中米南米に對日本を建つべき卑見を漏洩せしむ  
惟しは亞非利加も我邦人が暗黒世界なき申居り候用已た世界  
勢力の争地とお成中は自今跡は南米中米のみ我邦合下で  
南米中米に對日本を建てんか否は海を我湖沼たらしむる業また

是つて是らん政治家の眼光一掃を要する時なり存じは方今朝鮮の  
秩序擾亂する為の至その奇牙を伸べた地なくあけ構虎居旅の故を  
懐きそ定躬着た志んとする者少からずかる人をこの地に向けてその  
志を感ずしむるは人お經濟のまたおつても極好のりよと存じは向て。

勿謂今日不學而日之來  
日勿謂今日不學而日之來

下十九

未季日月逝矣。案。小我  
延。嗚呼。老矣。是。誰。之。愆。

何れぞ花見する人の長刀。蒲巻を  
寝ころぶ姿やあら。我々の雪とねんば  
程し傘のと。こが事と泥鰌の逃げし

根芥うふ。世の中は言見ぬ関り  
梅の如。菊の如やな良んを古き  
佛だら。時を鳴くやおまの十文字。

今日思之。明日言之。勤勉之手。能作富。  
有智無義。卽狡黠耳。平安度世者。福也。

下世

言不足行。有餘爲貴。驕傲之人。無真友。  
至羅馬。則行羅馬之俗。有德則令名來。



K2017

# 玉木愛石書



下世二

明治四十四年十月廿六日印刷  
明治四十四年十月廿九日發行

明治四十五年一月二日訂正印刷  
明治四十五年九月九日訂正發行

定價各金拾九錢

編者

橋本文壽

發行兼印刷者

森本謙藏

書者

玉木本三郎

發行者

森本專助

東京市神田區表猿樂町廿三番地  
大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番地

開文館

